

平成17年12月5日  
海洋研究開発機構

## 相模湾の深海生物サンプリングについて

独立行政法人海洋研究開発機構（理事長 加藤 康宏、神奈川県横須賀市）は、平成17年度深海調査研究有人潜水調査船「しんかい6500」調査潜航、「YK05-15航海」（12月6日～13日、首席研究者：極限環境生物圏研究センター 三輪 哲也 グループリーダー）において、相模湾に面して位置する水族館（新江ノ島水族館・京急油壺マリパーク）と共に、相模湾深海において深海生物のサンプリングを行います。

深海生物サンプリングは、深海の環境（圧力・水温等）を模擬できる特殊水槽「ディープアクアリウム」（別紙1）を用いたり、LED照射装置（ガラス球容器のLEDライト）を配置した「シャトルエレベータ」（別紙2）を用い、深海生物の誘引などを試み、生物の観察や生存捕獲を試みます。なお、今回これらの生物観察やサンプリングの様子を、新江ノ島水族館（館長 堀 由紀子、神奈川県藤沢市）ならびに京急油壺マリパーク（館長 樺澤 洋、神奈川県三浦市）の公式ホームページにおいて本航海中に随時、一般向けに公開いたします。

一般向け公開サイト （平成17年12月6日～ 随時更新）

新江ノ島水族館 URL: <https://www.enosui.com>

京急油壺マリパーク URL: <http://www.aburatsubo.co.jp>

### 問合せ先

海洋研究開発機構

極限環境生物圏研究センター

経営企画室

研究推進室長

グループリーダー

報道室長

檜木暢雄

三輪 哲也

大嶋 真司

Tel 046-867-9600

Tel 046-867-9676

Tel 046-867-9193

別紙1

### 保温保圧型深海生物捕獲飼育システム「ディープアクアリウム」

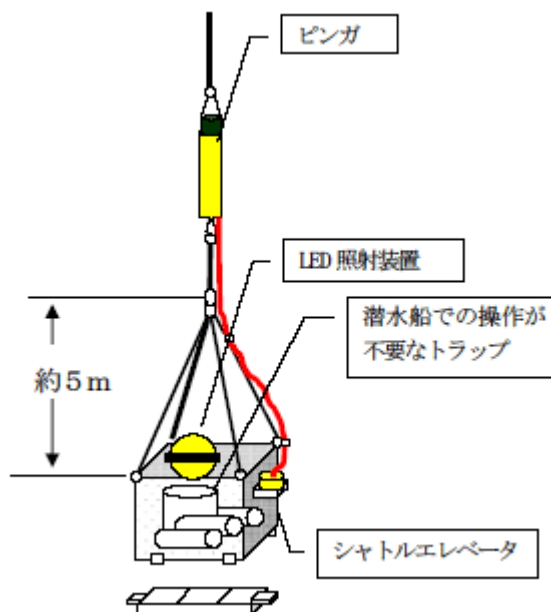
手前にある球状の耐圧水槽に深海生物を深海環境のまま捕獲し、深海から持ち帰る。後ろの箱型の生命維持装置で水槽内の温度、圧力、酸素濃度などをコントロールし、球状の耐圧水槽にいる深海生物を飼育する。



別紙2

シャトルエレベータ

「しんかい6500」の潜水調査時に、その調査を補助するために用いる装置運搬システム。浮力を作るための「係留系」と、装置を運搬するための「カーゴ」からなり、独立に投入浮上できる。



深海用LED照明装置：耐圧製ガラス球にLEDを内装し、深海底を長期間照らすことができるようにした装置。57個の高輝度LEDを備えた基盤6個をガラス球の下半球に設置し、各窓から光照射することができる。

